

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立向日が丘支援学校 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	京都府立向日が丘支援学校 小学部児童44名中学部44名、高等部生徒57名合計145名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 体育、特別活動 ）</p> <p>② 行事名（ 高等部交流のひろば、中学部長岡第二中学校との交流学习 ）</p> <p>③ その他（ 小学部、東京2020大会マスコット選定における小学部児童による投票 ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ 南山城支援学校ボッチャ大会、京都市障害者スポーツ振興会ボッチャ大会への参加 ）</p> <p>② その他（ 京都府立乙訓高等学校陸上競技部との合同練習 ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) ボッチャやフライングディスク等の障害者スポーツを通じて、中学校、高等学校との交流及び共同学習を充実させるとともに、交流を深め、障害者理解を図る。また、中学校生、高等学校生と障害者スポーツを通じて障害者スポーツの発展に寄与する。</p> <p>(2) オリンピック・パラリンピックについて関心を持ち、取り組んでいくとともに、各種の大会に参加し、共生社会の実現を図る。</p>
5 取組内容	<p>高等学校生との交流「交流ひろば」に、京都府立乙訓高等学校・京都府立西乙訓高等学校・京都府立洛西高等学校・京都府立桂高等学校・京都府立向陽高等学校が参加し、今年度も充実した取組みとなった。取組内容の充実を図れるよう、事前に各校の代表の生徒と教員が打合せを2回実施した。活動にボッチャを取り入れて交流を図ることができるよう、本校高等部生がルール説明をし、チームを組んで対戦を楽しんだ。</p> <p>近隣中学生との交流として、例年長岡京市立長岡第二中学校との交流学习を実施している。ボッチャを取り入れて交流を図るよう、事前学習を行った。</p> <p>東京2020大会マスコットの選定について、マスコットの候補を児童に提示し、各クラスで投票し、とりまとめて2月中旬に投票を行う予定である。</p> <p>南山城支援学校主催の「ボッチャ交流大会」、京都市障害者スポーツ振興会主催の「ボッチャ大会」に参加した。</p> <p>昨年度に引き続き、全京都障害者総合スポーツ大会陸上競技大会に向けて、京都府立乙訓高等学校陸上競技部との合同練習を8月に2度実施し、タータンコースでのランニングトレーニングなど充実した練習となった。</p>

	<p>小学部児童による、東京 2020 大会のマスコットの投票を行った。児童にわかりやすいように候補のマスコットを拡大して廊下などに掲示して興味を持てるようにした。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>高等学校生との交流「交流ひろば」は、本校高等部生にとって、ポッチャなどの活動を通して交流を深めることができ、今年度も充実した取組みとなった。ポッチャを通して障害者スポーツの楽しさ、面白さを高校生に伝えることができた。また、高等部生が、高校生にルールを説明したり、作戦を一緒に立てたりすることによって、自信を持って活動ができた。</p> <div data-bbox="454 450 1369 674" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">交流ひろばでのポッチャの取組 南山城支援ポッチャ交流大会</p> <p>長岡京市立長岡第二中学校との交流学习当日、交流校のインフルエンザ流行により残念ながら今年度は中止となった。別途交流が実現できるよう、検討中である。</p> <p>二つのポッチャ大会に参加することで、技術面はもちろんのこと、相手チームとの交流も深めることができた。</p> <p>全京都障害者総合スポーツ大会陸上競技大会に向けて、京都府立乙訓高等学校陸上競技部との合同練習を行う中で、元オリンピック陸上選手の顧問の先生から、わかりやすくていねいなアドバイスをもらうことができた。また、陸上部員からもアドバイスや励ましの言葉かけをもらうなど充実した練習ができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>高校生との交流「交流ひろば」においては、事前打合せを綿密にすることにより、交流を目的とした取組を検討できた。中学生との交流学习においても、中学生が本校を訪れてお互いをより知る事前学習を行うことによって、より相互理解が深まった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>ポッチャやフライングディスクをより日常的に取り入れていくことにより、各大会に積極的に参加できるようにする。小学部段階でも、あそびながらスポーツの楽しさを味わえるようにしていく。それぞれの学部で、体育、特別活動、あそびの指導などの教育課程に障害者スポーツをより取り入れていけるよう検討を進めていく。また、オリンピック、パラリンピックへの応援の取組を積極的に進めていく。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>定例の高等学校や中学校のみならず、ポッチャ、フライングディスク、卓球バレーなどの障害者スポーツの取組を通して、地域との交流を深めていけるよう計画を進める。障害者総合スポーツ大会に向けて地域の資源を有効活用していく。</p>